

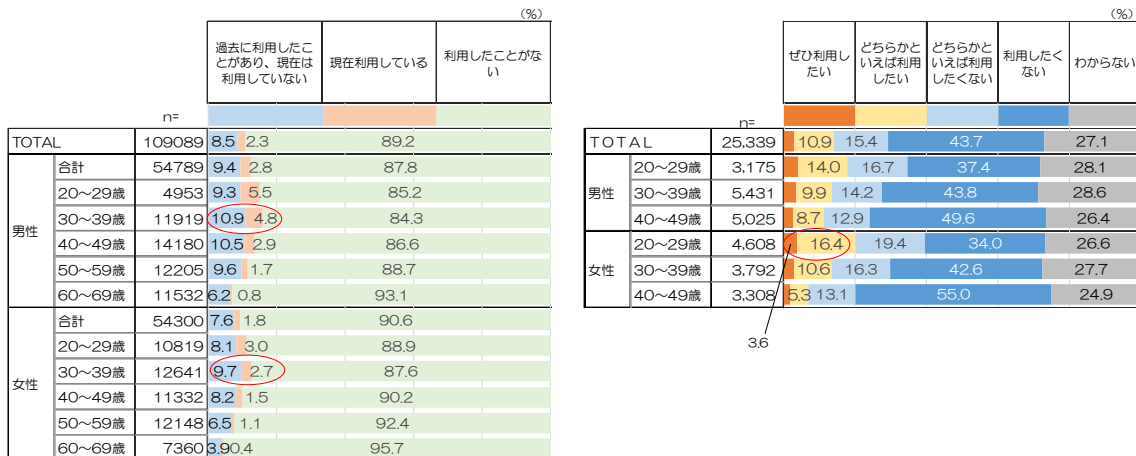
第3章. 婚活・結婚支援サービス業界の現状

以前は、世話好きな親戚や知人からの「お見合い」の話、職場内恋愛など様々な出会いの機会がありました。しかし最近では、こうした出会いの機会が減少し、一方でマッチングアプリの利用が増加するなど、新たな出会いの機会も生まれています。

ここでは、結婚相談所やマッチングアプリなどを含む、最近の結婚支援サービス業界全体の動向を見た上で、個別の婚活・結婚支援サービス事業者の状況および近年の婚活サービスに対するイメージの変化について見ていきたいと思います。

(1) 婚活・結婚支援サービス業界の動向

- ① 男女ともに30代において利用経験者が多い（30代男性15.7%、30代女性12.4%）。また、現在利用経験がなくても、20代女性の5人に1人が「ぜひ利用したい」「どちらかといえば利用したい」と回答。



一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会（JAMIC）『婚活サービスに関する意識調査（2019年1月）』

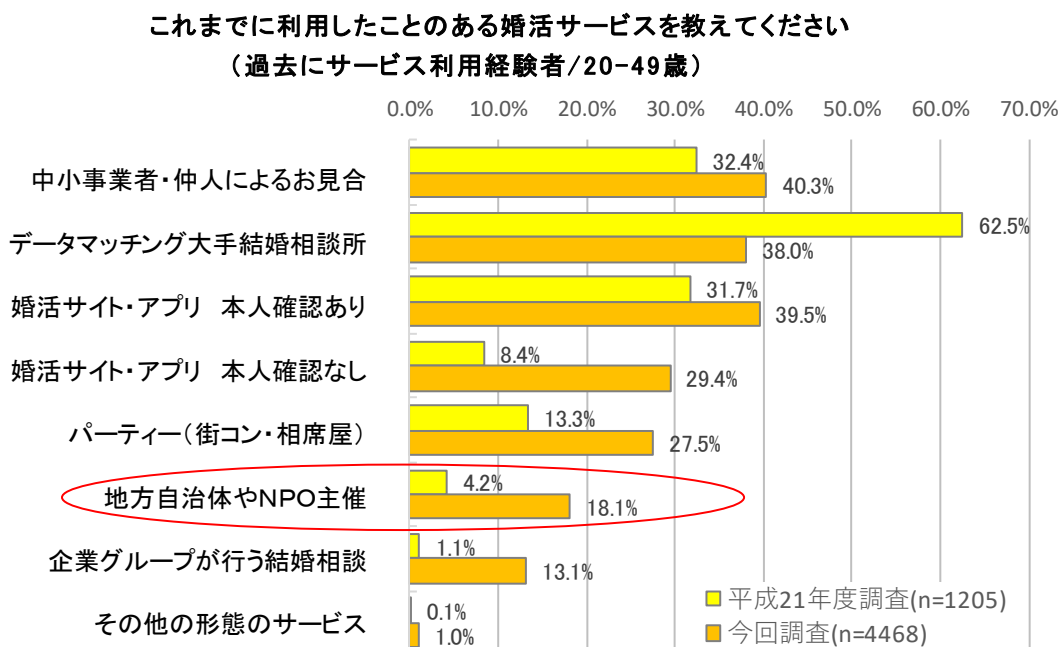
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・若い世代でサービス利用者およびサービス利用意向者が多いのは、上の世代よりも婚活・結婚支援サービスを利用して相手を探すことに対して肯定的なイメージを持っていることが考えられる。

② 婚活・結婚支援サービス利用者が選択するサービスは約10年前と比べて、多種多様に。地方自治体やNPO主催のサービスを利用する人の割合についても、約10年で4.2%から18.1%と約5倍に増加。

(複数回答)



一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会 (JAMIC) 『婚活サービスに関する意識調査 (2019年1月)』

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・10年前は「結婚相談所」1強という状況だったが、2019年時点では「婚活サイト・アプリ」が大幅に増えており、「地方自治体やNPO主催」のサービスも10倍程度増加している。
- ・利用者には様々な婚活サービスを活用する選択肢があり、その中から、公共的な婚活支援を選ぶ人もいれば、民間のサービスを選ぶ人もおり、様々である。
- ・支援者に様々なサービスの仕組みを学んでもらうことで、支援者が利用者に対して、出会いの機会を増やすための選択肢として、安心・安全に留意しながら、様々なサービスの併用も検討することをアドバイスできるようにする（支援者自身が偏見を持っている場合もあることに留意）。
- ・各サービスにはそれぞれの特徴があり、どれを選ぶかは利用者本人の自由である。受講者の皆さんも、民間の色々なサービスを知識として把握しておいていただきたい。

【講義展開例】

- ・受講生の身の回りの方で婚活している家族・親族・知人の活動状況について、質問する。

③ 婚活・恋人探しの活動内容をみると、都市規模に関わらず、「友人・知人の紹介」や「婚活イベント」などのほか、「マッチングアプリ」の利用も活発。

(複数回答) (%)

n=		友人・知人に紹介を頼む	マッチングアプリ	合コン、街コン、婚活パーティーなどの出会いを目的としたイベント	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	サークル活動、習い事、資格取得のための学校	SNSやオンラインサービス	家族や親戚の紹介/お見合い	民間の結婚支援事業を利用する	地方自治体やNPOなどの団体の結婚支援事業を利用する	その他	行っていない	
未婚者 TOTAL	合計	1370	25.1	24.7	17.6	10.5	6.2	5.8	4.2	2.9	0.2	52.3	
	政令都市在住	461	24.3	24.1	17.6	10.8	5.6	7.2	4.1	4.3	1.5	0.2	52.7
	中核都市在住	454	25.8	24.7	18.7	10.6	5.7	5.9	7.3	3.3	0.4	54.0	
	地方部在住	455	25.3	25.3	16.5	10.1	7.3	4.4	4.4	4.8	3.5	0.0	50.1
未婚者・ 男性	合計	687	29.5	29.4	21.4	14.0	7.9	7.9	6.4	5.5	3.8	0.1	46.0
	政令都市在住	229	29.3	31.9	21.0	15.7	7.9	10.9	4.4	5.2	2.6	0.0	43.7
	中核都市在住	229	30.6	28.4	24.0	14.8	7.4	6.1	9.2	5.7	0.4	47.6	
	地方部在住	229	28.8	27.9	19.2	11.4	8.3	6.6	5.7	5.7	3.1	0.0	46.7
未婚者・ 女性	合計	683	20.6	19.9	13.8	7.0	4.5	3.8	4.1	2.8	2.0	0.3	58.6
	政令都市在住	232	19.4	16.4	14.2	6.0	3.4	3.4	3.9	3.4	0.4	0.4	61.6
	中核都市在住	225	20.9	20.9	13.3	6.2	4.0	5.8	5.3	0.9	1.8	0.4	60.4
	地方部在住	226	21.7	22.6	13.7	8.8	6.2	2.2	3.1	4.0	4.0	0.0	53.5

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「現在の婚活・恋人探しの活動内容」

研修時のポイント等

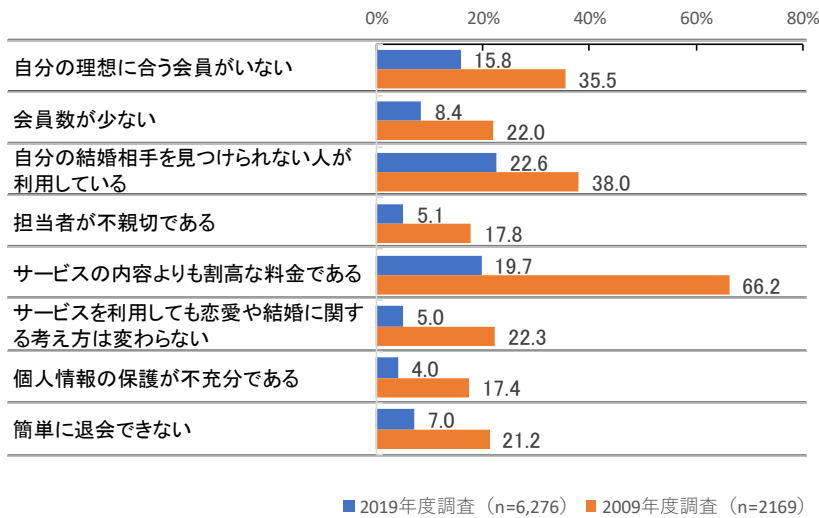
【重点説明ポイント】

- ・男女別では、活動内容の傾向に大きな違いはみられないが、女性において市町村規模が小さくなるにつれ、利用が活発化している傾向がみられる。

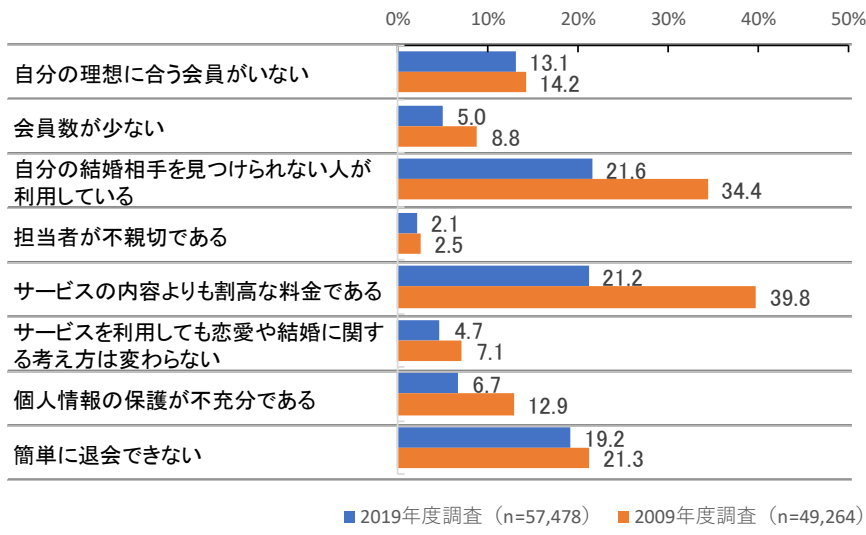
④ 民間の婚活サービスの利用経験者において、過去の調査では「割高な料金」「結婚相手を見つけられない人が利用している」などネガティブなイメージが上位に挙がっていたが、最近の調査では「理想の相手を見つけられる」「気軽に利用できる」などポジティブなイメージが上位。

非利用経験者においても、ネガティブなイメージは大幅に減少し、「結婚相手を見つけられない人が利用している」という回答は、前回(10年前)調査時の34%から13%低い、21%となった。

(サービス利用者/20～49 歳)



(非サービス利用者/20～49 歳)



一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会 (JAMIC) 『婚活サービスに関する意識調査 (2019 年 1 月) 』より一部抜粋

研修時のポイント等

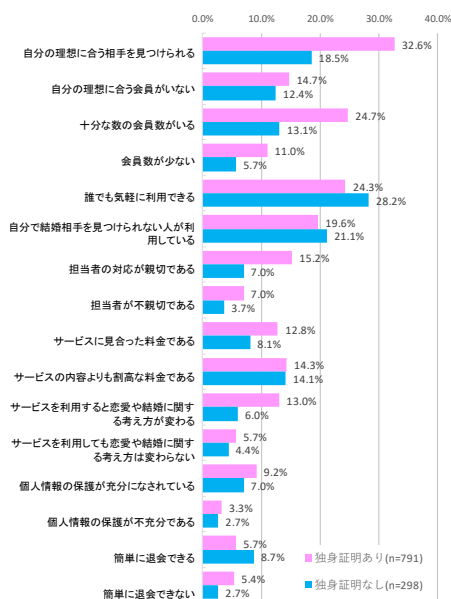
- 【重点説明ポイント】
- ・婚活サービスのイメージは大変向上し、ネガティブイメージは減少してきている。
- 【講義展開例】
- ・受講生自身が持っているイメージについて、質問する。

⑤ 「信頼性」、「手ごろさ」など婚活サービスの利用理由はサービスの種類によって違いがある。

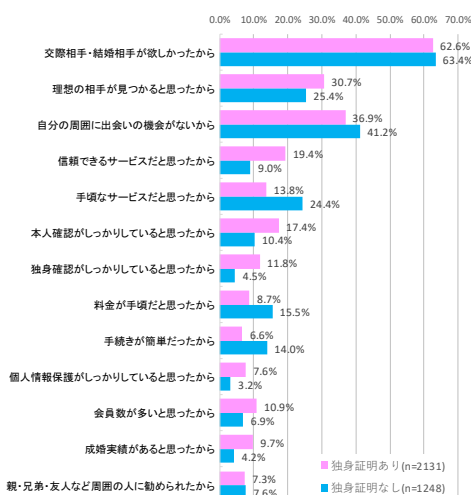
独身証明ありのサービスでは「信頼・安心」、独身証明なしのサービスでは「手ごろさ、簡単さ」に関係する回答が高い。

(複数回答)

表A サービスの 카테고리ごとのイメージを教えてください。
(現在サービスを利用している/20-49歳)



表B なぜ結婚サービスを利用しましたか？
(過去にサービス利用経験者/20-49歳)



※定義について
【独身証明あり】
独身証明を必要とする中小企業や個人が提供のお見合いのセッティングや結婚や交際のサポートをするサービス。独身証明を必要とする大手結婚相談所・結婚情報サービスが提供するデータマッチングにより相手を探すサービス。
【独身証明なし】
インターネット上で、自分が結婚相手を探すことを支援するサービスのうち、本人確認を行っているサービスのうち、本人確認を行っていないサービス。インターネット上で自分が結婚相手を探すことを支援するサービスのうち、本人であることの確認などはなされず、自由に活動を行うことができるサービス。インターネット・スマホ婚活。

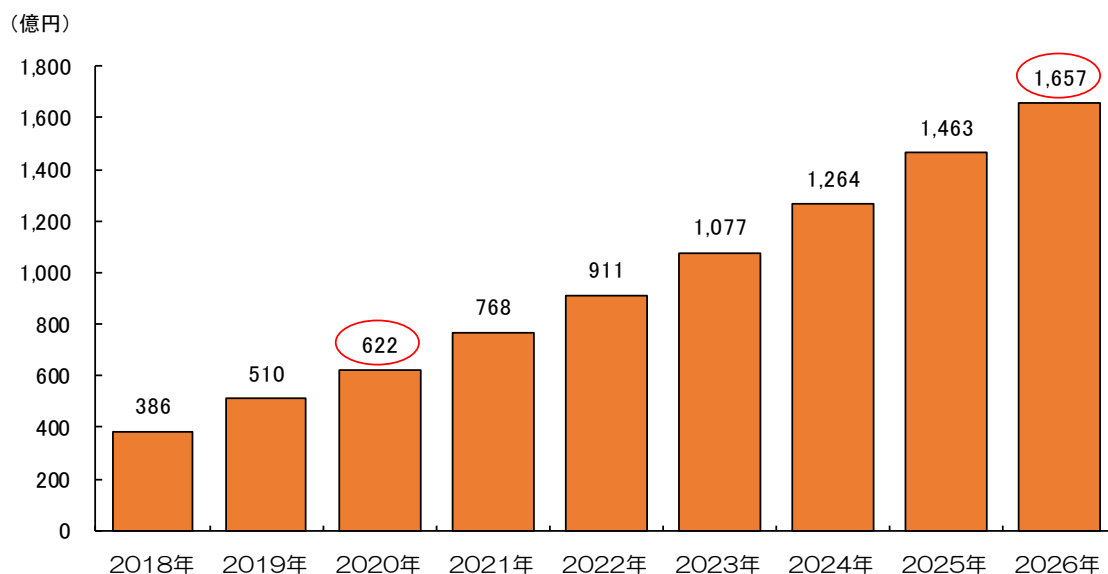
一般社団法人日本結婚相手紹介サービス協議会 (JAMIC) 『婚活サービスに関する意識調査 (2019年1月)』

研修時のポイント等

- 【重点説明ポイント】
- ・ サービスごとにメリット、デメリットがあり、利用者が利用上の注意点などをよく理解した上で、目的に沿って、利用することが重要。
 - ・ 求めるサービスが公的結婚支援とは合っていないと思われる利用者がいた場合には、出会いの機会を増やす選択肢として、サービスごとのメリット・デメリットなどに留意しつつ、様々なサービスを検討することをすすめてみるのも一つの方法である。

(2) マッチングアプリ業界の市場拡大

2020年のオンライン恋活・婚活マッチングサービス市場は、前年比約2割増の622億円。2026年には2020年比2.6倍の1,657億円に達する見込み。



『2021 オンライン恋活・婚活マッチングサービスの国内市場調査』

(マッチングエージェント/デジタルインファクト調べ)

Copyright ©MatchingAgent, Inc. All Rights Reserved.

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

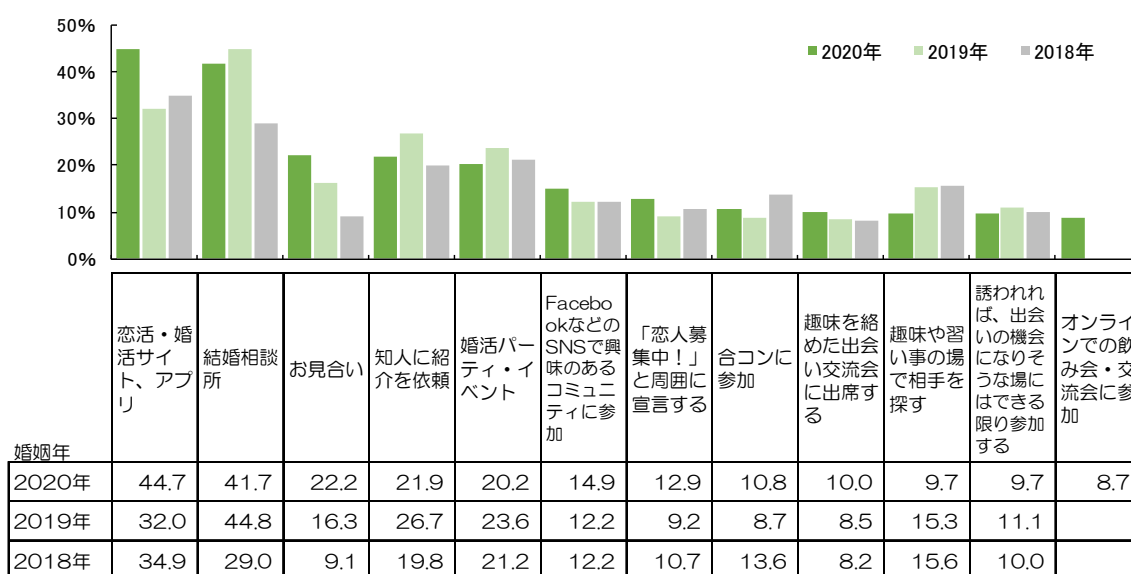
- ・マッチングアプリとは、スマートフォンに入るアプリで、簡単な手続きで恋人や結婚相手探しをできるように、検索や、プロフィール閲覧、相手とのコミュニケーションなどを図る機能があるもの。
- ・自分の好みの相手を、自分で探し、自分で交渉することになるが、スマホだけで手軽に始められることなどから、利用が年々増えているとみられる。

【講義展開例】

- ・受講者自身が持っているマッチングアプリのイメージについて、質問する。

(3) 民間の婚活支援サービスの状況

結婚した人の婚活支援サービスの利用状況をみると、コロナ禍もあつたか、婚活サイト・アプリの利用割合が増えている。利用割合は、婚活サイト・アプリ（44.7%）、相談所（41.7%）、お見合い（22.2%）、知人に紹介を依頼（21.9%）、婚活パーティ・イベント（20.2%）。



ブライダル総研（2021）『婚活実態調査』「民間の婚活支援サービスの利用状況」（有効回収数 n=2,400）より（複数回答）

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚した人に調査してみると、婚活サイトやマッチングアプリ、結婚相談所の利用が大変多い。

【講義展開例】

- ・婚活サイトや結婚相談所の利用が大変高くなった理由はなぜだと思うか、受講者に質問する。

(4) 婚活・結婚支援サービス別の特徴

①結婚相談所

婚活・結婚支援サービスは、「利用までの流れ」、「サービス内容」、「料金」などで「店舗型相談所」、「オンライン型相談所」、「オンラインサービス」に大別される。それぞれに違った特徴があり、個人の希望にあったサービスをよく考えて選ぶことが重要。

結婚相談所は、結婚を希望する独身の会員に対して、結婚を前提とした出会いを支援するサービス。利用するには本人確認書類に加え、独身証明書や年収証明書などを求める事業者が多い。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚相談所のサービス内容は事業者によって異なるが、自分の結婚観から具体的な希望条件などを引き出してもらえるなど、カウンセラーの手厚いサポートを受けながらの相手紹介や、自分で希望条件を入力して異性を検索できる点が特徴。
- ・カウンセラーのサポートにより、相手に自分から声をかけることが苦手な方でも相手探しを進めることが出来る。また、利用者に結婚を明確に希望している利用者が多いのが特徴。
- ・結婚相談所では、カウンセラーの手厚いサポートを受けられる一方で、利用料金は他のサービスと比べて高額になる傾向がある。その分、カウンセラーとの相性やカウンセラーがうまく機能しているかなどについて、慎重な検討を行った上で、結婚相談所を選択することが重要。

②オンラインサービス（婚活サイト・マッチングアプリ等）

オンラインサービスは20代～30代の利用者が多く、恋愛や結婚対象となるパートナーとの出会いを気軽に見つけられるサービス。

- ・利用料金が定額制のところが多く、比較的安価で気軽に始められる。
- ・最近では、オンラインサービスであっても、独身証明書の提出を求めたり、専用のカウンセラーが支援したりするなど、利用者の真剣度に応じて、様々なサービスを提供。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・オンラインサービスのツールとして、近年、利用が拡大しているのが、スマートフォン上でサービスが完結するマッチングアプリである。相手探しやコンタクト、メッセージのやりとりなどのサービスを、多くは月額制で気軽に利用できる。
- ・独身証明書の提出が求められないマッチングアプリサービスでは、男女で利用料金について価格差があるサービスもある。

③地域の結婚支援センターによる結婚支援サービス

研修時のポイント等

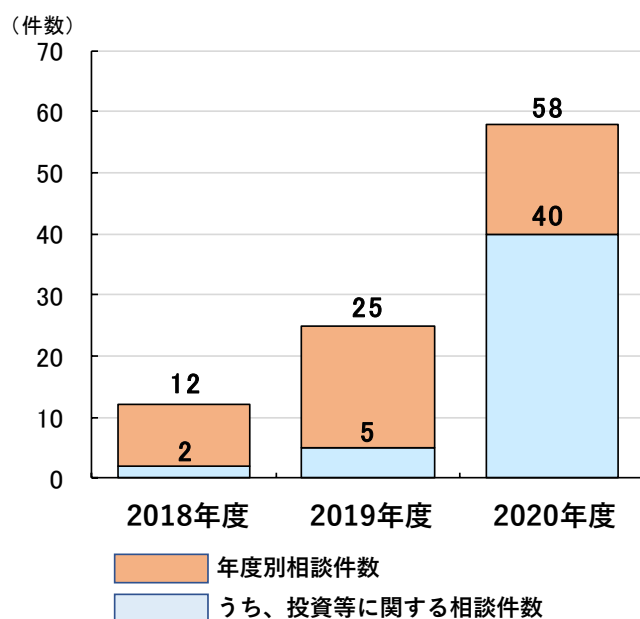
【重点説明ポイント】

- ・地域の結婚支援センター等が提供するサービス内容について説明する。

(5) オンラインサービス等の利用時の注意

パートナーを見つけるための活動をオンラインでサポートするサービスでは、オンラインで気軽にパートナーを探せる一方、本人確認の徹底が難しいことから、本来の利用方法ではない目的で近づいてくる人物とマッチングしてしまうこともある。

中でも、現在経済的に見通しの立ちにくい状況が続いているためか、詐欺的な賭け事や投資等の海外サイトに勧誘する手口が目立っている。



※2018年4月1日から2020年12月31日までに受け付けた相談件数

独立行政法人国民生活センター 令和3年2月18日報道資料より

- サイトやアプリ等の規約をよく読んでから利用すること。
- 投資等の話でうまいもうけ話には安易に応じないこと。
- 個人情報をお安易に提供しないこと。

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・「オンラインサービス」の中には、健全な交際目的以外の詐欺や投資勧誘など違法性が高い目的で利用する者もいて、それによる被害を受ける事例もある。
- ・こういった事例から、オンラインサービスは、かつて「出会い系サイト」と呼ばれるなどして、怪しいというイメージが先行してきた側面もある。
- ・現在も、そういった悪質な事例は続いており、国民生活センターへの相談件数も増加している。利用者においても注意が必要になっている。
- ・そのサービスが、悪質なものか、安心できるものなのか、普通の人が簡単に見分けられるとは限らないので、注意が必要。
- ・利用者がオンラインのマッチングサービスを利用するのはもちろん自由だが、もし利用者が、危険なサイトを利用していたり、マッチングサイトの出会いをきっかけに投資話やもうけ話に触れていたりする気配を感じたら、念のため注意を促してほしい。迷ったらセンターに相談してほしい。
- ・利用しているマッチングアプリサービスの規約等に「既婚者は入会不可」である旨、記載があれば、既婚者に騙された時に訴訟することも可能。

【講義展開例】

- ・受講者に、身の回りで実際に被害の話聞いたこと、相談を受けたことがあるか質問する。